

札幌地区道路管理システム

データ取扱いマニュアル

2019年3月 改訂

平成18年12月15発行

(一財)道路管理センター札幌支部

【 道 路 】

平成18年12月15日初版
平成18年12月26日改訂
平成19年11月12日改訂
平成31年3月29日改訂(デジタル道路台帳図データから更新)

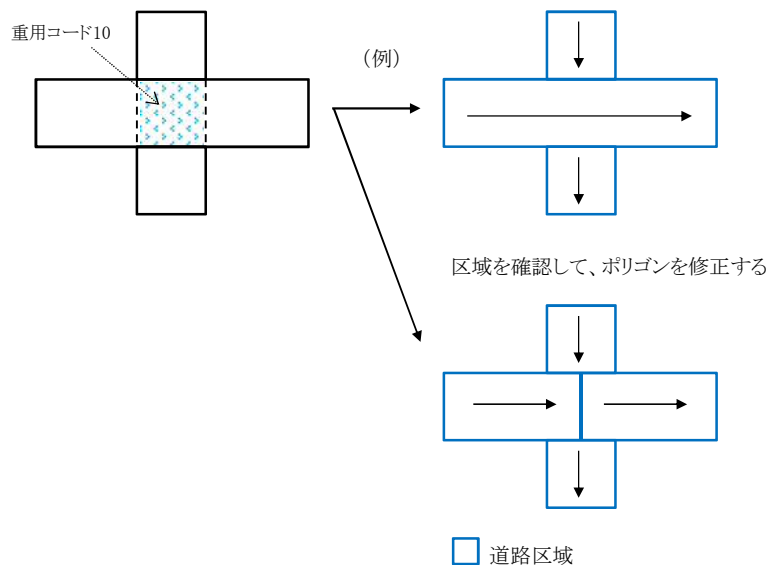
※1 雨水マンホール
※2 流雪溝・雨水管
※3 ロードヒーティング(車道部・鉄道などのピア・一般歩道部)

目次		
オーバーレイNo.		ページ
1. 道路管理区分	-----	1
2. 境界杭	-----	6
3. 車道	-----	7
4. 歩道	-----	8
5. 中央分離帯	-----	10
6. 自転車道	-----	11
7. 法敷	-----	12
8. 幅員	-----	14
9. 橋梁	-----	16
10. 高架部	-----	18
11. 横断歩道橋	-----	19
12. トンネル	-----	20
13. 共同溝	-----	21
14. キャブ	-----	22
15. 地下横断歩道	-----	23
16. 植樹帯	-----	24
17. ガードレール	-----	25
18. 照明灯	-----	26
19. 舗装構成	-----	27
20. 側溝	-----	28
21. 自転車駐車場	-----	29
22. 起点・終点	-----	30
23. 道路標識	-----	31
24. 柵(街渠柵・流雪柵・雨水柵)	-----	32
25. その他道路	-----	35
26. 中心線	-----	36
27. 距離標(地点標)	-----	37
28. 踏切	-----	38
29. 重用	-----	39
30. その他のシンボル※1	-----	40
31. その他のライン※2	-----	41
32. その他のポリゴン※3	-----	43
33. 情報管路管路部	-----	47
34. 情報管路特殊部	-----	48
35. 情報管路オフセット・デプス	-----	49
39. リサイクル材	-----	50

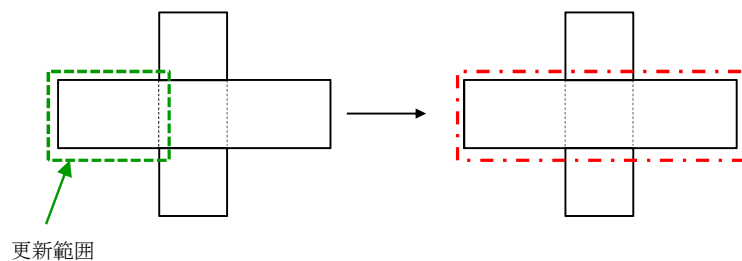
– 1 –

入力時の運用方法

〈既設〉 更新範囲が既設道路で交差点に重用フラグが付いている場合、道路台帳図に重用区間を示す入力が無いときは、道路区域図で区間を確認し、道路管理区分のポリゴン修正と重用フラグを削除する。



更新範囲が交差点にかかるときは、道路区域図を確認し必要であれば、
破線枠内の道路管理区分を修正する。



入力時の運用方法

3. 単位区間割り条件

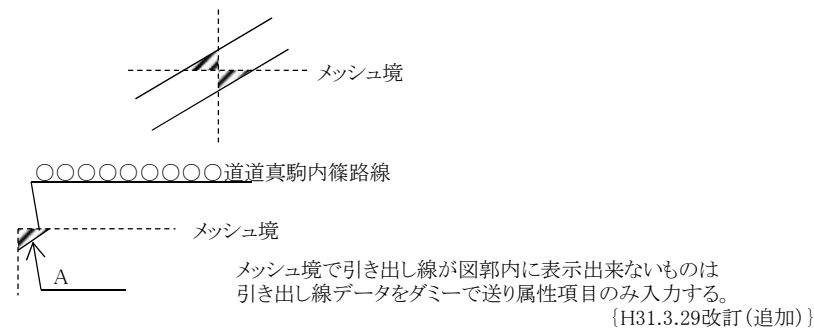
- ・ 交差点、特殊構造物の箇所、重用部
- ・ 図郭線
- ・ 異なる道路管理者の管理区分
- ・ 車道の舗装種別の変更線
- ・ 区境

4. 路線名はメッシュ内でその路線を代表する面(区分)に最低1箇所入力する。
また、表示に対して地形編での路線名(地番)との重なりをさけること。

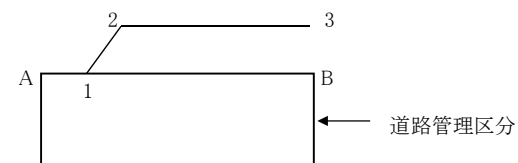
5. 路線番号は全管理区分に設定する。

6. 管理区分どうしが接する辺は、隠線表示とする。

7. メッシュ境の微小な面の属性表示方法(路線名称・路線番号・路面種別)は、非表示とする。

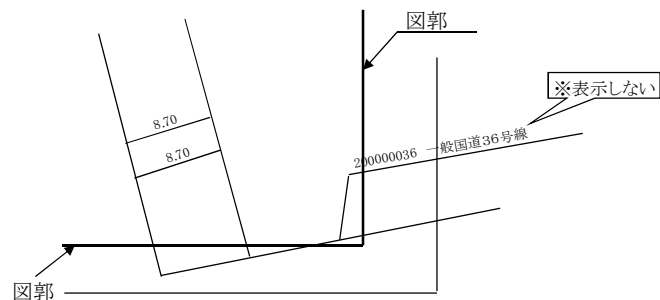


8. 引き出し線の1点目は、設備に座標一致させる。
引き出し線は道路管理区分と平行に入力する。
(設備A・Bの線上に1の点をのせる。)

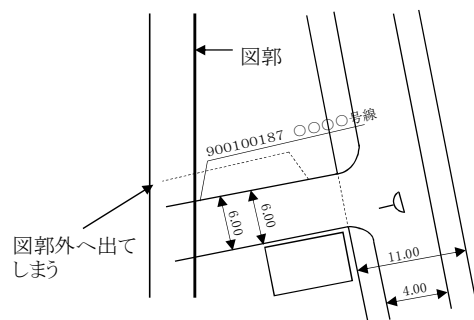


入力時の運用方法

9. 特殊構造物(トンネル・橋梁・高架・踏切)も道路管理区分の面データを作成する。
10. 図郭近くの路線において路線長が図上2cm以下(目視)は、引き出し線は表示しなくてよい。

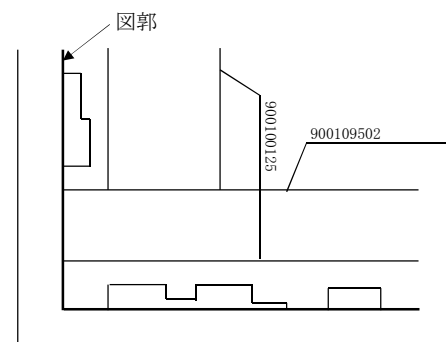


11. 路線名、路線番号が図郭外に出る時は、書き出し位置を反転し図郭内に納める。
(他の道路にかかってもよい)

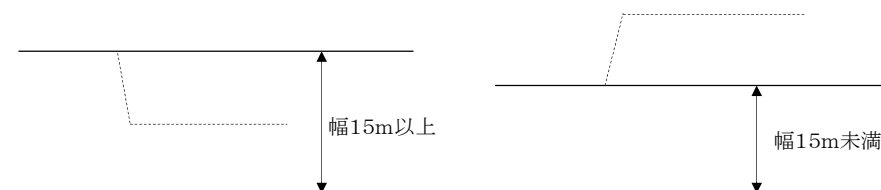


入力時の運用方法

12. 路線名、路線番号の表示位置を図郭外に出さないようにする場合は、他の路線名と重ならないように、ずらして入力する。



13. 路線名、路線番号の表示位置は、幅15m以上は道路内に、15m未満は道路外に表示する。

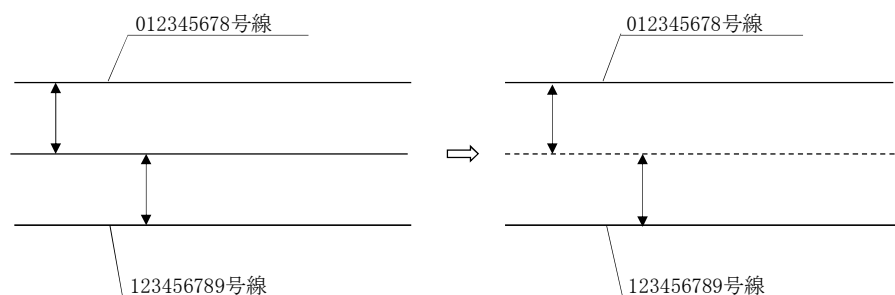


{H31.3.29改訂(追加)}

入力時の運用方法

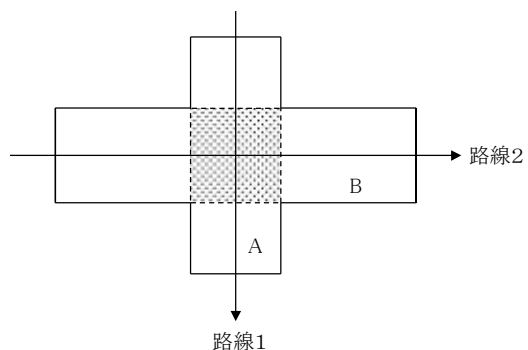
入力時の運用方法

14. 異なる路線の管理区分どうしが平行に一致している場合、この接続しているラインは隠線とする。
(交差点と同じ考え方)
区域幅員等の表示は各々の区域で入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}



(注)この隠線と一致する他のポリゴン(車道、歩道等)も隠線とする。

15. 立体交差部の入力は次のとおりとする。
- (1) A・Bそれぞれの面として入力する。
 - (2) A・Bそれぞれの道路管理区分の属性情報の立体交差形態コード「1」を必ず格納する。
 - (3) 道路管理区分の面分割の方法は任意とする。
 - (4) 車道、歩道等の入力は道路管理区分A・Bに対して入力する。
なお、必ず接続情報を入力する。



入力時の運用方法

入力時の運用方法

1) 道路種別

区 分	コード
高速自動車道路	1
一般国道 指定区間	2
指定区間外	3
主要道道	4
一般道道	5
主要市道	6
1級市道	7
2級市道	8
その他市道	9

2) 専用区分

区 分	コード
一般道	0
自動車専用道	1
自転車歩行者道	2
自転車専用道	3
歩行者専用道	4

4) 路線コード

区 分	コード
路線番号	4桁

〈新設〉

コード7～9(1級市道、2級市道、その他市道)の判別が出来ないので、道路部幅員20m以上を1級市道、それ以外をその他市道にする。 {H31.3.29改訂(追加)}

〈既設〉

既設入力のコドをそのまま使用する。 {H31.3.29改訂(追加)}

※ 一般国道指定区間外は北海道は該当しない。

3) 地区コード

複数区00は使用せず各区単位で区コードをつける。

区 分	コード	区 分	コード
中央区	010	豊平区	050
北 区	020	清田区	055
東 区	030	南 区	060
白石区	040	西 区	070
厚別区	045	手稲区	075

※ 国道・高速自動車道は、000とする。

国道及び札幌市路線番号体系

路 線 番 号	路 線 の 区 分
0001～8999	各区単独の一般路線
9000～9199	歩行者専用道
9200～9449	自転車・歩行者専用
9450～9499	自転車専用道
9500～9899	複数区に跨る路線
9900～9999	主要市道
道道路線番号一覧表による	一般・主要道道
国道路線番号一覧表による	指定区間

＜事例＞

1. 一般国道5号の指定区間

20 000 0005

2. 主要道道札幌環状線(東区内)

40 030 0809

3. 一般道道西野白石線(豊平区内)

50 050 5453

4. 一般道道滝野上野幌自転車道線(南区)

53 060 0814

5. 主要市道真駒内篠路線(中央区)

※ダブルウェイ

60 010 9900

6. もみじ台歩道18号線(厚別区内)

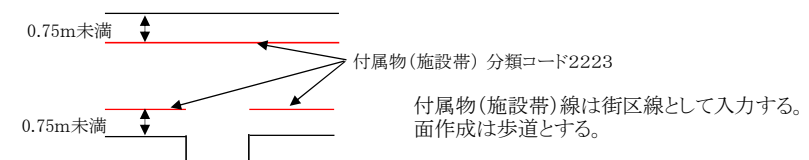
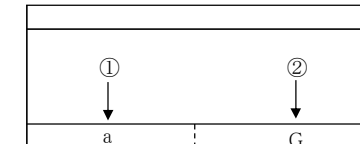
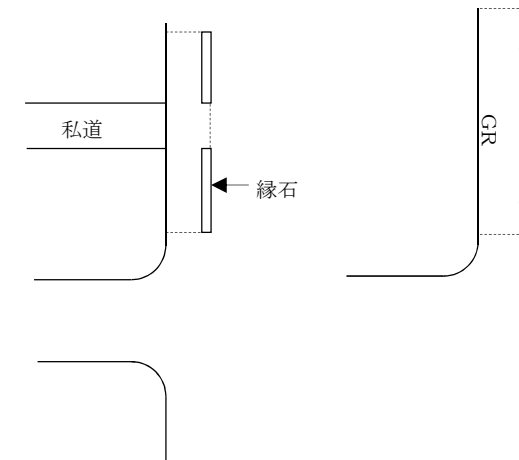
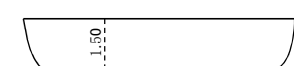
94 045 9001

7. もみじ台歩道1号線(厚別区内)

92 045 9207

										オーバーレイ No.2		中分類		境界杭								
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法												
			数	文	面	線	点	形														
図形	設備	境界杭 (シンボルコード)						●		道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 道路台帳図では仮杭の扱いは無いので、入力されている6種類の杭を全て本杭として入力する。 更新範囲の仮杭は削除する。 H31.3.29改訂(追加)											
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自)	(コード表のとおり)					(自)=2								●					
	接続	接続道路管理区分の データ管理者番号 データ設備番号 データ路線番号																				
	属性	現地座標(X=) 現地座標(Y=) 境界杭管理番号																				
出力表示形式																						
シンボル表示形式																						
本 杭(市・国)																						

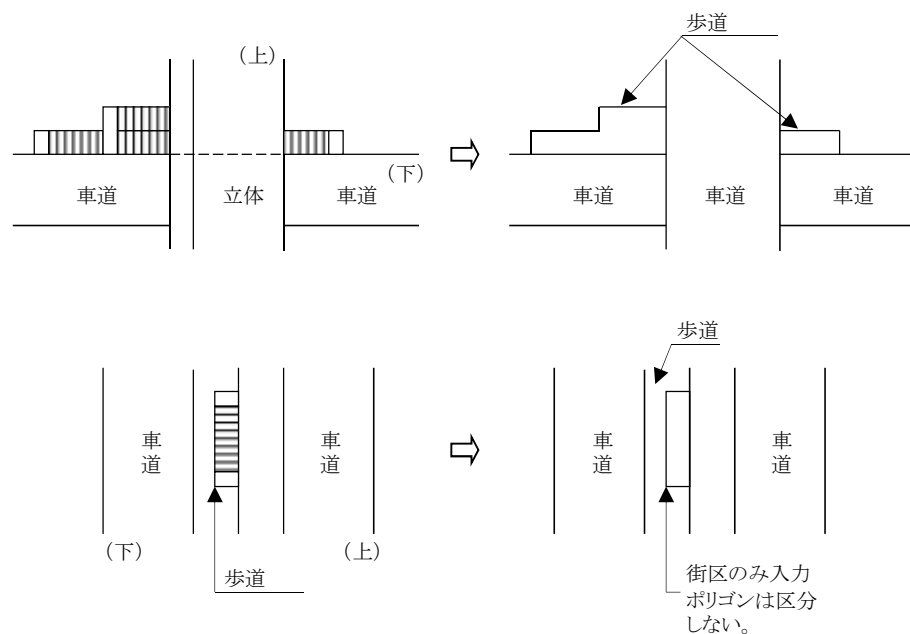
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	車道範囲			●					1. 道路台帳図の道路管理区分・街区線・歩道線を基に車道を面入力する。{H31.3.29改訂(追加)} 2. 道路管理区分の変更と舗装種別の変更単位に車道面を区分する。 ※ 車道の面入力については、一部システムにおいては自動作成可能である。 3. 舗装種別は、ほぼ車道の中央部に入力する。 4. 舗装種別の引き出し線は図面水平。 5. 舗装種別で車道内に引き出し線を出せない場合 又は、縦・横どちらかが3mm以下の面については引き出し線を非表示にし属性のみ入力する。{H18.12.26改訂(追加)} {H31.3.29改訂(追加)} 6. 車道同士が接する辺は隠線とする。 7. 立体交差地下部の扱い 街区で入力された地形 ↓ 車道発生 車道面は、街区の閉じた線で区分せず、1管理区分として通して入力する 8. 自転車道の車道は、地形編の街区に特殊な事例があるので参考とする。{H18.12.26改訂(追加)} 9. 自転車・歩行者専用道、自転車専用道は車道として入力する。{H18.12.26改訂(追加)} 10. 歩行者専用道は歩道として入力する。{H18.12.26改訂(追加)}
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =21	●					} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定 } 接続先の道路管理区分の内容を格納(別紙資料のとおり) コード表のとおり 舗装種別 コード CO セメントコンクリート 1 A 高級 2 a 簡易 3 B B級 4 CS 特C 5 C C級 6 G 砂利 7 S 石 8 W 木 9 H 平板 10 E インタロッキング* 10	
	接続	接続道路管理区分の データ管理者番号 データ設備番号 データ路線番号	●	●	●					
	属性	舗装種別	●							
出力表示形式										
CS CS										

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	歩道範囲			●					1. 道路台帳図の道路管理区分と歩道線・付属物(施設帯)線を基に歩道を面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}  2. 道路管理区分の変更と舗装種別の変更単位に歩道面を区分する。 3. 舗装種別は特殊なもの(平板ブロック・砂利、インタロッキング)のみ入力対象とし引き出し線は図面水平。それ以外はダミーでよい。 4. 同一単位区間内で歩道種別が区分される場合は、歩道面を二つに区分して入力する。  5. 歩道どうしが接する辺は、隠線とする。 6. 歩道が縁石・ガードレールで区分されている箇所は、小さな設置単位で切らず大きな交差部の終了個所から直に切る。 
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =22	●					} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	
	接続	接続道路管理区分の データ管理者番号 データ設備番号 データ路線番号	●	●	●			} 接続先の道路管理区分の内容 を格納(別紙資料のとおり)		
	属性	舗装種別	●							
									コード表のとおり	
									舗装種別 コード H 平板ブロック 10 G 砂利 7 a アスファルト 3 E インタロッキング 10	
出力表示形式										
 3号破線 4号実線 数字は縦1.5mm										

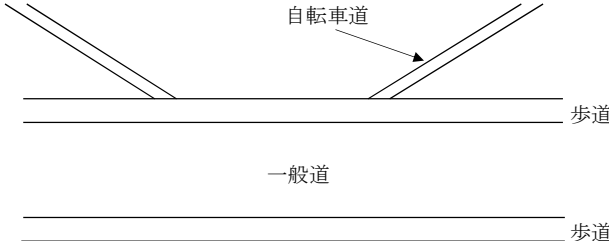
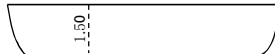
入力時の運用方法

入力時の運用方法

7. 道路の脇に付いている階段は、歩道で入力する。
 なお、地形情報では、ハッチング表示はせずに外形のみを街区で入力する。

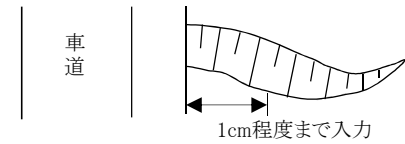


小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法		
			数	文	面	線	点	形				
図形	設備	中央分離帯範囲			●				}	1. 道路台帳図の安全地帯・分離帯線を基に中央分離帯を面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}		
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自)	(コード表のとおり)						}	2. 属性情報はない。(MTはダミー扱い)	
	接続	接続道路管理区分の データ管理者番号 データ設備番号 データ路線番号	●								3. 道路管理区分単位で区分する。 なお、分離帯どうしが接する辺は隠線とする。	
出力表示形式												
11.00 3.00 4号実線 3号破線 数字は縦1.5mm 国道274号 道央自動車道 国道274号 国道274号 道央自動車道 国道274号 部を入力 中央分離帯で入力する												
4. 高速道路(高架)下部の扱いは、中央分離帯として入力する。												
5. 幅員の表示が無い小さな分離帯も中央分離帯で入力する。 {H18.12.26改訂(追加)}												

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	自転車道範囲			●					1. 道路台帳図には自転車道のデータは無い。 路線名称等で判断し、道路管理区分、街区線に従い面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. 属性情報はない。(MTはダミー扱い) 3. 河川敷き内の自転車道は入力対象外とする。 4. 道路管理区分単位で区分する。 5. 自転車道が一部一般道の歩道と重用している箇所は入力対象としない。 
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) = 25	●					} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	
	接続	接続道路管理区分の データ管理者番号 データ設備番号 データ路線番号	● ● ●							
出力表示形式										
 3号破線 4号実線 数字は縦1.5mm										

小分類		データ項目	データ形式					データ取扱い	入力時の運用方法																																														
			数	文	面	線	点	形																																															
図形	設備	法敷範囲			●		(自)		1. 道路台帳図にある法敷範囲をタイプ別に面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}																																														
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =23	●					} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	2. 道路管理区分の変更単位に法敷範囲の区分は不要。																																													
	属性	種別 路線番号	●							3. ドーナツポリゴンは、扱えない。																																													
			●						4. 開始、終了点は、記号の発生範囲を決めているので入力時注意すること。																																														
出力表示形式																																																							
範囲の大きさにより、自動発生 of 法敷シンボルを変更させる。 道路台帳図に入力されている法敷 <table><tr><td>(1) 切土</td><td>人工斜面</td><td></td><td>分類コード</td><td></td></tr><tr><td>(2) 石垣</td><td>石積被覆</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>(3) 盛土</td><td>人工斜面・土堤</td><td></td><td>6101</td><td>6102</td></tr><tr><td>(4) 網</td><td>法面保護(網)</td><td></td><td>6121</td><td></td></tr><tr><td>(5) モルタル</td><td>法面保護(モルタル)</td><td></td><td>6122</td><td></td></tr><tr><td>(6) コンクリート</td><td>コンクリート被覆</td><td></td><td>6111</td><td></td></tr><tr><td>(7) 芝はり</td><td>札幌なし</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>(8) ブロック張</td><td>ブロック被覆</td><td></td><td>6112</td><td></td></tr><tr><td>(9) コンクリート柵</td><td>法面保護(コンクリート柵)</td><td></td><td>6123</td><td></td></tr></table> {H31.3.29改訂(追加)}											(1) 切土	人工斜面		分類コード		(2) 石垣	石積被覆				(3) 盛土	人工斜面・土堤		6101	6102	(4) 網	法面保護(網)		6121		(5) モルタル	法面保護(モルタル)		6122		(6) コンクリート	コンクリート被覆		6111		(7) 芝はり	札幌なし				(8) ブロック張	ブロック被覆		6112		(9) コンクリート柵	法面保護(コンクリート柵)		6123	
(1) 切土	人工斜面		分類コード																																																				
(2) 石垣	石積被覆																																																						
(3) 盛土	人工斜面・土堤		6101	6102																																																			
(4) 網	法面保護(網)		6121																																																				
(5) モルタル	法面保護(モルタル)		6122																																																				
(6) コンクリート	コンクリート被覆		6111																																																				
(7) 芝はり	札幌なし																																																						
(8) ブロック張	ブロック被覆		6112																																																				
(9) コンクリート柵	法面保護(コンクリート柵)		6123																																																				
5. 法敷が道路管理区分より始まり民地に長く続く場合は、道路管理区分より1cm程度まで入力する。 6. 河川敷地内にある法敷は、入力しない。 7. 法幅が目視2mm未満の場合については、入力しない。 8. 道路管理区分内の素堀側溝や小水路による法敷は、目視2mm以上のものを入力し、2mm未満は入力しない。(次頁参照) 9. コンクリート柵 分類コード6123の入力は、種別コードが無いので種別コード8 ブロック張を使い入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}																																																							

5. 法敷が道路管理区分より始まり民地に長く続く場合は、道路管理区分より1cm程度まで入力する。



6. 河川敷地内にある法敷は、入力しない。

7. 法幅が目視2mm未満の場合については、入力しない。

8. 道路管理区分内の素堀側溝や小水路による法敷は、目視2mm以上のものを入力し、2mm未満は入力しない。(次頁参照)

9. コンクリート樹 分類コード6123の入力は、種別コードが無いので種別コード8 ブロック張を使い入力する。{H31.3.29改訂(追加)}

情報		道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =23	●				道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	
属性		種別 路線番号	●						
出力表示形式									
範囲の大きさにより、自動発生 of 法敷シンボルを変更させる。 道路台帳図に入力されている法敷 (1) 切土 人工斜面 6101 (2) 石垣 石積被覆 6113 (3) 盛土 人工斜面・土堤 6101 6102 (4) 網 法面保護(網) 6121 (5) モルタル 法面保護(モルタル) 6122 (6) コンクリート コンクリート被覆 6111 (7) 芝はり 札幌なし 6112 (8) ブロック張 ブロック被覆 6112 (9) コンクリート樹 法面保護(コンクリート樹) 6123									

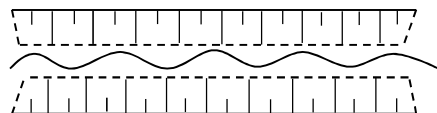
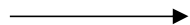
入力時の運用方法

8. の事例 {H18.12.26改訂(追加)}

道路台帳図

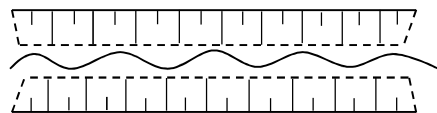
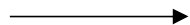
入力

①

法敷2mm未満
一条河川

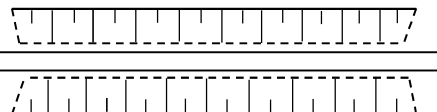
全て省略する

②

法敷2mm以上
一条河川

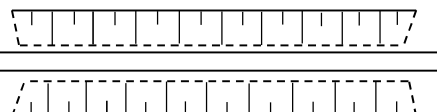
法敷入力、一条河川省略

③

法敷2mm未満
二条河川(2mm未満)

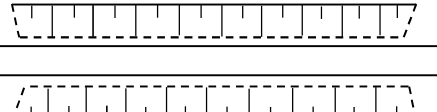
全て省略する

④

法敷2mm以上
二条河川(2mm未満)

法敷入力、二条河川省略

⑤

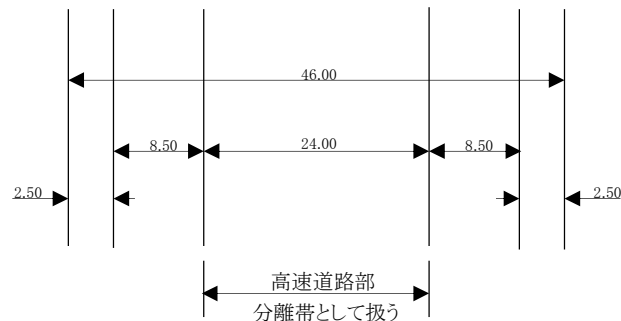
法敷2mm以上
二条河川(2mm以上)

法敷、二条河川両方入力

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	幅員及び幅員値		●		●			道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 断面図を基に幅員の変化に応じて代表箇所を入力する。 交差部は除く。 原則として、道路管理区分単位に最低1ヶ所を入力する。 道路台帳図に入力されているのは、全幅員と半幅員の2種類(半幅員は道路基準線で分けた数値) 車道幅員、歩道幅員、中央分離帯幅員は断面図を調べて入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}	
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) = 26	●							
	接続	接続道路管理区分の データ管理者番号 データ設備番号 データ路線番号	●	●	●			接続先の道路管理区分の内容 を格納(別紙資料のとおり)			
	属性	幅員値 現況フラグ	● ○								
出力表示形式											
4号実線 3号破線 11.00 3.00 数字は縦1.5mm 断面図 10.94 1.70 7.50 1.74 8 {H31.3.29改訂(追加)}											

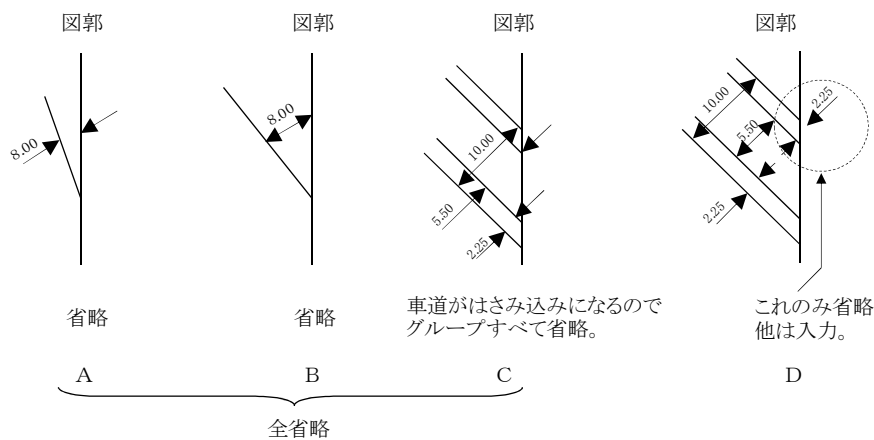
入力時の運用方法

6. 高速自動車の扱い



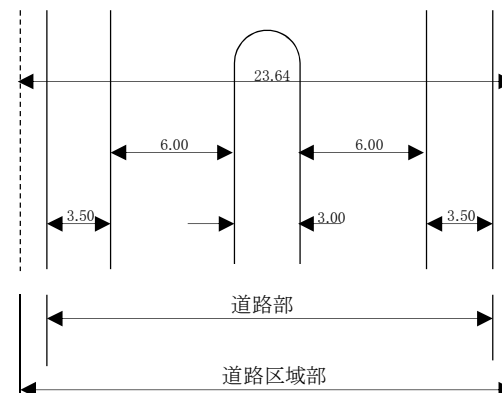
7. 図郭際の幅員について

- ① 車道幅員や区域幅員が、はさみ込み型の表示でしか入力できない(表示する範囲が狭い)場合は省略する。
- ② 同上の幅員が標準型の表示で入力できても、数値が歩道線や街区線、図郭線に重なり数値が読みにくい場合は省略する。
なお、省略するときは、車道幅員や区域幅員のみを省略するのではなく、そのグループすべてを省略する。
全幅員が取れない場合には、省略する。(A、B)

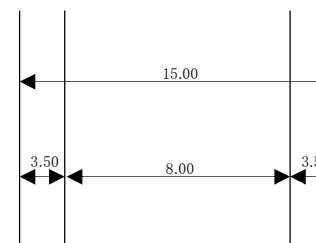


入力時の運用方法

道路区域≠道路部の例

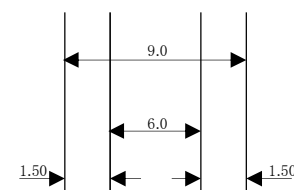


道路区域＝道路部の例



歩道幅員が3.5m以上の場合は2点で入力

幅が狭く数字が入らない場合



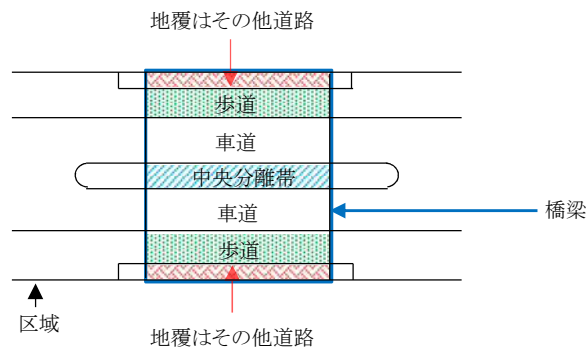
歩道幅員が3.5m未満の場合は挟み込み入力

{H31.3.29改訂(追加)}

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	橋梁範囲			●	●			線情報は必要に応じて入力する。	1. 道路台帳図にある橋梁を面入力する。 また、面入力する範囲は地覆を含む橋梁構造物全体とする。 なお、同一名称を持ち構造物が分割している場合は、その単位で面入力する。 H31.3.29改訂(追加)
	注記	名称 延長 幅員								
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) = 41 ● ●						} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	国道橋梁 (国道番号3桁)+(橋梁番号4桁) 市橋梁 (区コード2桁)+(橋梁番号3桁)+(枝番号1桁) 道路台帳図 10-0043 → 10 043 0 南3条橋 ↓ ↓ ↓ 区コード 橋梁番号 枝番号 道路台帳図の橋梁番号には枝番号が無いので、後ろに枝番号を付けて入力する。 H31.3.29改訂(追加)
	属性	名称 型式 図面番号・管理番号 延長 建設年 建設月 塗装年(1) 塗装月(1) 塗装年(2) 塗装月(2) 塗装年(3) 塗装月(3) 幅員 橋梁種別 橋梁番号	○ ● ● ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ○	●						
出力表示形式										
〇〇〇〇橋 16.50 2.50 延長幅員表示 メッシュ境										

入力時の運用方法

5. 橋梁のある道路管理区分内に中央分離帯・歩道・その他があれば、通常通り作成する。
地覆はその他道路として入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}

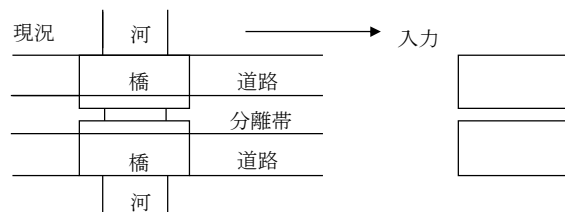


6. 幅員は地覆を除いた数字を入力する。

7. 分割橋梁の入力方法は、道路台帳図どおり入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}

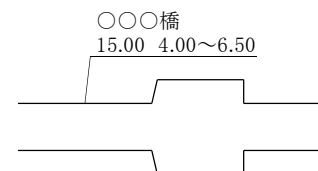
事例

分離帯等で分割橋梁となっている場合は、別々に橋を入力し橋梁番号・橋梁名は同一とする。



入力時の運用方法

8. 橋梁の幅員値が最大と最小が表示されている場合は最小値を入力する。

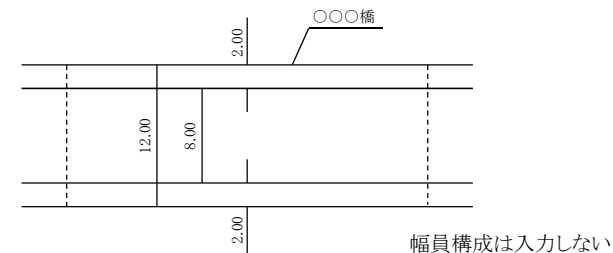


9. 名称(引き出し線)は橋梁と平行に入力する。

10. 管理区分外の橋梁は、名称・幅員・延長が記載されていれば入力する。

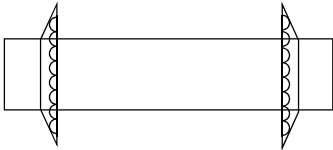
11. 橋梁区間は幅員構成を入力しない。

{H18.12.26改訂(追加)}
{H31.3.29改訂(追加)}



小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	高架部範囲 ピア			● ●					1. 札幌地区は、高架部は橋梁として取り扱う関連から、「橋梁」として入力する。 なお、橋脚部(ピア)が存在する場合は、この情報のみ高架部に格納するものとする。

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	横断歩道橋			●				道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定 JISコード最大30文字 管理番号体系どおり	1. 道路台帳図にある横断歩道橋を面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}	
	注記	名称								2. 横断歩道橋番号は道路台帳図にあるものを入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}	
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =43	●						3. メッシュを跨ぐ場合は、橋梁と同様に各々名称・管理番号を入力する。	
	属性	名称 型式 種別 図面番号・管理番号 延長 幅員 建設年 建設月 塗装年 塗装月 高さ 横断歩道橋番号	○ ○ ● ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	●						4. 階段部で途中平らな部分があっても階段部として扱う。 平らな部分を区分せず階段で扱う。	
											5. ラセン状の階段も面を小さく切らず1つの面で入力する。 6. 上部の平らな部分が円形または口の字形図形は、2つに分割入力する。
出力表示形式										札幌市の番号体系 主要道道 主要市道 一般道々 市道1級 市道 2級 市道 その他 700 800	
										7. 階段部のX方向の移動量は500mmとする。 8. 階段部がなくスロープの横断歩道橋は一つの面で入力する。 9. 属性データがない場合は街区で形状のみ入力する。 10. 名称(引き出し線)は横断歩道橋と平行に入力する。 {H18.12.26改訂(追加)}	

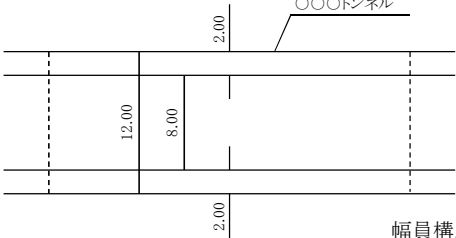
小分類		データ項目	データ形式					データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形	
図形	設備	トンネル			●		(自)		坑口化粧自動発生
	注記	名称 延長 幅員							
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自)	(コード表のとおり)					} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定 JISコード最大30文字 管理番号体系どおり
	属性	名称 トンネル図面番号 (管理番号) 延長 幅員 建設年 建設月 高さ トンネル番号	●	●					
出力表示形式  600008 南沢トンネル									

1. 道路台帳図にあるトンネルを面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}

2. トンネル管理番号は道路台帳図にあるものを入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}

3. 名称(引き出し線)はトンネルと平行に入力する。

4. トンネル区間は幅員構成を入力しない。 {H18.12.26改訂(追加)} {H31.3.29改訂(追加)}

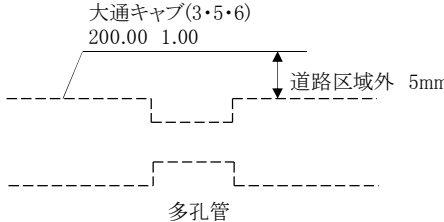


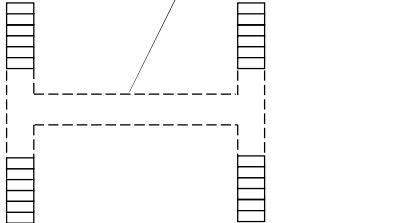
幅員構成は入力しない

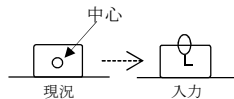
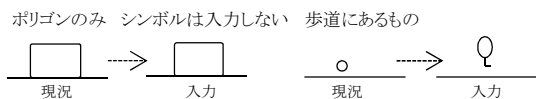
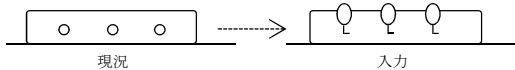
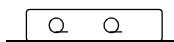
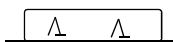
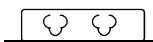
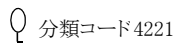
注: トンネル部分以外に側道がある場合、道路管理区分＝車道では作成できないため通常区間と同じ方法で、データ {H21.10. 26改訂(追加)}

5. 橋梁と同様、区域内に歩道、その他道路等があれば車道、歩道、その他道路として入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	共同溝			●					1. 共同溝資料を基に面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}
	注記	名称 延長 幅員								2. 共同溝番号、延長、幅員は、共同溝資料を基に入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) = 45 ● ●						} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	道 路 1 (道路管理者が持っているケーブル) 上 水 2 下 水 3 ガ ス 4 NTT 5 電 力 6
	属性	名称 共同溝、図面番号 (管理番号) 延長 幅員 建設年 建設月 路線指定年 路線指定月 路線指定日 建設告示年 建設告示月 建設告示日 公益事業者名 (1)～(10) 深さ 高さ	● ● ● ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ● ○ ○	●						JISコード最大30文字 管理番号体系どおり m単位小数点以下2桁 m単位小数点以下2桁 コード表のとおり
出力表示形式										7. 名称(引き出し線)は、共同溝と平行に入力する。 {H18.12.26改訂(追加)}
3号破線 ○○○○共同溝 200. 00 2. 50 数字は延長、幅員の順に並べる。										

			オーバーレイ No.14		中分類		キャブ			
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	キャブ			●				1. キャブ資料を基に施設単位で面入力する。 部分的な多孔管も切らずに入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. キャブ番号、延長、幅員はキャブ資料を基に入力する。(施設単位に入力) {H31.3.29改訂(追加)} 3. 公益事業者名を入力する。(共同溝同様) 4. 名称の表示位置は、道路区域から5mmの位置とする。  大通キャブ(3・5・6) 200.00 1.00 道路区域外 5mm 多孔管 数字は、延長、幅員の順に並べる。 管理番号なし。 公益事業者コードは、共同溝と同じ。	
	注記	名称 延長 幅員								
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =46 ● ●					} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定 JISコード最大30文字 管理番号体系どおり m単位小数点以下2桁 m単位小数点以下2桁		
	属性	名称 キャブ、図面番号 (管理番号) 延長 幅員 建設年 建設月 深さ 高さ 公益事業者名	● ● ● ○ ○ ○ ○ ●	●						
出力表示形式										
3号破線 ○○○キャブ 200.00 1.00 数字は、延長・幅員の順に並べる。										
◎ 1施設1ヶ所の引き出し線とするが、複数の図葉に跨がる場合、同じ項目(名称・番号・延長・幅員)を表示する。 ◎ 途中に多孔管が布設されていてもデータは切らずに1つの施設で扱う。 5. 名称(引き出し線)はキャブと平行に入力する。{H18.12.26改訂(追加)}										

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	地下横断歩道			●					1. 道路台帳図にある地下横断歩道を面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. 地下横断歩道番号、延長、幅員は、地下横断歩道資料を基に入力する。 資料のない場合は管理番号を999で入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 3. 入力方法は横断歩道橋と同様 原稿図の記載例 415 南19条地下歩道 24.90 2.50  <td>管理番号に地上・地下の区分はなし。</td>	管理番号に地上・地下の区分はなし。
	注記	名称 延長 幅員									
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =47 ● ●						} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定 JISコード最大30文字 管理番号体系どおり m単位小数点以下2桁 m単位小数点以下2桁		
	属性	名称 地下横断歩道番号 (管理番号) 延長 幅員 建設年 建設月 地下横断歩道種別 地下横断歩道番号	● ● ● ○ ○ ○ ○	●							
出力表示形式											
3号破線 山下地下横断歩道 10.00 5.00 数字は延長・幅員の順に並べる。											
4. 名称(引き出し線)は地下横断歩道と平行に入力する。 {H18.12.26改訂(追加)}											

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	植 樹 帯			●		●		道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 道路台帳図にある植樹帯は面入力する。 H31.3.29改訂(追加)	
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =61	●						2. 植樹シンボルの方向は全て北方向とする。 H31.3.29改訂(追加)	
	属性	植樹帯番号	○							3. 属性情報なし。(MT交換はダミー)	
4. 入力位置 H19.10.22改訂(修正) H31.3.29改訂(追加)											
中心  ポリゴンのみ シンボルは入力しない 歩道にあるもの  											
5. 植樹帯、中央分離帯内のシンボルと歩道にある ○ (シンボルのみ)は入力する。 H31.3.29改訂(追加)											
  											
中央分地帯の中にあるものは全て入力する。											
単体の Q Λ ∪ は入力しない。											
6. 独立樹											
 分類コード4221  分類コード4222は入力対象としない。 H31.3.29改訂(追加)											

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	ガードレール				●			} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 道路台帳図にあるガードレール5種と車止めを線入力する。 (ポール及び曲き込みは自動発生) 分類コード G. C 6143 ガードケーブル G. R 6144 ガードレール G. P 6145 ガードパイプ G. C. B 6146 ガードチェーン 6147 その他 ○—○ 2224 車止め } ガードレールとして入力する。 2. 属性情報なし。(MT交換はダミー) 3. シンボルの自動発生角度は、ライン進行方向に対して 右側 -90度 左側 +90度
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =62	●						
	属性	ガードレールタイプ	○							
出力表示形式										
3号実線 (注)ポールは自動発生 シンボルコード 10020										

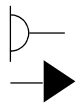
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	照明灯						●	道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 道路台帳図に入力されている   のみ入力する。 (道路管理区分外にある照明灯は入力しない) {H31.3.29改訂(追加)}	
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =63	●				●			3. 新規の照明灯番号は全て9999で入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}
	属性	照明灯管理番号 支柱種別	● ○								
管理番号体系のとおり											5. 単柱式のものに限る。{H18.12.26改訂(追加)}
出力表示形式											図面表示 {H31.3.29改訂(追加)}
 2mm 3号線 シンボルコード 発生角度 10004 0											6. 国道における照明灯番号は、L32 C35 R37などとレフト側、センター、ライト側に区分されているが、番号にレフト側は+1000、センターは+2000、ライト側は+3000した値で入力する。 {H18.12.26改訂(追加)} {H31.3.29改訂(追加)} また、A・Bと表示されている時は、Aに+4000、Bに+5000した値で入力する。 例) L32→1032、C35→2035、R37→3037 A105→4105、B217→5217  L32 (1032)  R37 (3037) ()内が入力時の番号 {H18.12.26改訂(追加)}
道路台帳  316-1 -----▶ 入力  316 7. 照明灯番号の枝番が表示されている場合、照明灯番号は枝番を省略し本番を入力する。 {H19.10.22改訂(追加)} {H31.3.29改訂(追加)}											8. 防犯灯(分類コード4238)  は入力しない。 {H31.3.29改訂(追加)}

										オーバーレイ No.19		中分類		舗装構成		
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法						
			数	文	面	線	点	形								
図形	設備	舗装構成			○						{H18.12.26改訂(追加)}					
	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	○ ○ ○ ○								札幌地区は入力対象外					
情報	属性	舗装種別 舗装構成(1) 舗装構成(2) 舗装構成(3) 舗装構成(4) 舗装構成(5) 舗装構成(6) 舗装構成(7) 竣工年 竣工月 工事種別(原因) 施工主体	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○													
	出力表示形式															

										オーバーレイ No.20		中分類		側溝					
小分類		データ項目		データ形式						データ取扱い		入力時の運用方法							
				数	文	面	線	点	形										
図形	設備	側溝					●			} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定									
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号		(自) ●	(自) ●	(コード表のとおり) =64													
	属性	タイプ(UL型区別) 幅員		● ○								ULの区分と有蓋無蓋を区分							
出力表示形式																			
U1,L型側溝 ===== ----- U0型側溝 ===== ===== SK型側溝 {H18.12.26改訂(追加)}  ===== ----- SK側溝はU1で入力をする。 {H31.3.29改訂(追加)}																			
1. 道路台帳図に入力されている側溝(分類コード2231 U字溝無蓋、分類コード2232 U字溝有蓋)を線入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. タイプは 原稿図の表示 分類コード U0 U型蓋無側溝 ===== 2231 U1 U型蓋有側溝 ===== 2232 L L型側溝 ===== 2232 O O型側溝 ----- (札幌市なし) SK 壺型側溝 ===== 2232 U型蓋有りで入力 {H18.12.26改訂(追加)} {H31.3.29改訂(追加)} 3. 引き出し線はMT交換においては、オールビット0とする。 4. 歩道内の側溝も入力する。 5. 柵の部分で切らずに入力する。 ===EF-----EF=== {H18.12.26改訂(追加)} 6. 道路台帳図の側溝地下部分は入力しない(分類コード2234) {H31.3.29改訂(追加)} 7. 皿型側溝(SU=300等)は入力しない。 8. 道路管理区分内の素掘側溝(S=300等)は入力しない。 {H18.12.26改訂(追加)} 但し、S=1000程度以上の素掘側溝は河川で入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 9. 道路台帳図に入力されている側溝線(両側)2本とも入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 分類コード 道路台帳図 入力 2231 =====> [] U字側溝 蓋無し 2232 -----> [] U字側溝 蓋有り																			

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設 備	自転車駐車場			○				1. 入力時は、その他道路で入力する。 (真駒内地下鉄駅)	
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	○ ○ ○ ○	=65						
出力表示形式										

札幌地区は入力対象外

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	起 点・終 点						●	} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 道路台帳図のとおり起点・終点を点入力する。 分類コード 起点 9001 終点 9002  {H31.3.29改訂(追加)}
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =3	●				●		
出力表示形式										
起点  2mm 終点  2mm シンボルコード 起点 21003 終点 21004										

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法									
			数	文	面	線	点	形											
図形	設備	道路標識			●		●		}	道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 道路台帳図に入力されている5種類の大型道路標識を入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 分類コード 224124 道路情報板(大型) 224224 道路標識 案内(大型) 224324 道路標識 警戒(大型) 224424 道路標識 規制(大型) 224524 道路標識 指示(大型) 道路台帳図には、シンボルのみ入力されている。 新規入力の大型道路標識 大型道路標識の資料があるものについては、支柱基礎のポリゴンを入力する。 資料の無いものは、シンボルのみ入力する。 基礎 既設の大型道路標識 道路台帳図とのズレによる修正は、そのまま位置を修正する。 2. 標識は点(シンボル)入力及び面入力は基礎部長辺が2mを超えるものを入力。 3. 属性情報なし(MT交換はダミー扱い) 4. 道路を横断する大型標識は両側入力とする。								
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =66 ● ●																
	属性	施設管理番号	○																
出力表示形式																			
4号破線 2mm シンボルコード 10015 発生角度 0 基礎部の大きさは大型道路標識の型式により求める {H31.3.29改訂(追加)} (表)<table><tr><th rowspan="2">型式</th><th colspan="2">基礎工</th></tr><tr><th>縦</th><th>横</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>												型式	基礎工		縦	横			
型式	基礎工																		
	縦	横																	

				オーバーレイ No.24				栴				中分類				街渠栴						
小分類		データ項目		データ形式						データ取扱い				入力時の運用方法								
				数	文	面	線	点	形													
図形	設備	街渠栴							●		} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定				1. 国道以外の路面排水用栴(=街渠栴)について道路台帳図にある栴を点(シンボル)入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. 道路区域内の全ての街渠栴を入力する。 3. 街渠栴の特殊なものも街渠栴のシンボルで入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} ○ も街渠栴として入力する。							
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号		(自) ● ●	(コード表のとおり) =67																	
出力表示形式																						
シンボルコード 10019																						

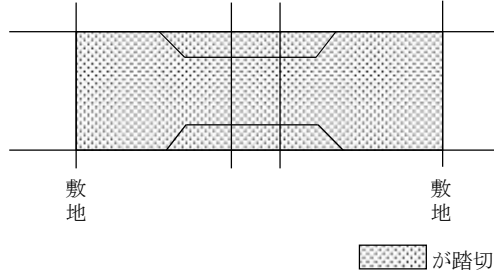
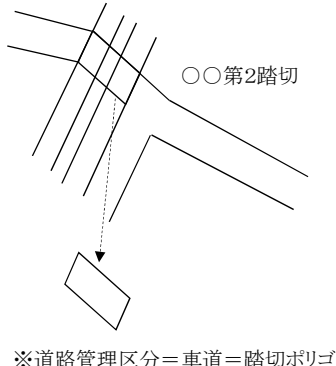
			オーバーレイ No.24			桧			中分類			流雪溝桧				
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法						
			数	文	面	線	点	形								
図形	設備	流雪溝桧						●		} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 道路台帳図には、流雪溝桧の入力は無い。 流雪溝が発生した場合は、資料より入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}					
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) ●	(自) ●	(コード表のとおり) =67											
出力表示形式																
1.5mm 2mm シンボルコード 21005 流雪溝施設 ・藻岩下 ・安春川 ・新琴似 ・発寒 ・創成東 ・琴似 ・北郷 ・新琴似北																

			オーバーレイ No.24			桧		中分類		雨水桧	
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	雨水桧						●		1. 国道に関して入力する。 2. 国道の雨水桧を点(シンボル)入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 3. 道路台帳図の桧入力は、道道、市道のみ国道の入力は無い。 {H31.3.29改訂(追加)} 国道部分は、開発局の資料より入力を行う。	
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =67 ● ●						} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定		
出力表示形式											
2mm シンボルコード 21007											

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	その他道路			●					1. 道路区域内の車道・歩道・中央分離帯以外の区域を、その他道路として面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. 属性情報はない。(MTはダミー扱い) 3. 幅員数字は不要。 4. その他道路の有無は、歩道と街区線より判断する。 {H31.3.29改訂(追加)} <

										オーバーレイ No.26		中分類		中心線																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
小分類		データ項目		データ形式						データ取扱い		入力時の運用方法																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
				数	文	面	線	点	形																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
図形	設備	中心線					●			1. 国道に関して入力する。 2. 資料にある中心線を線入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号		(自) (コード表のとおり) (自) =調整中	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

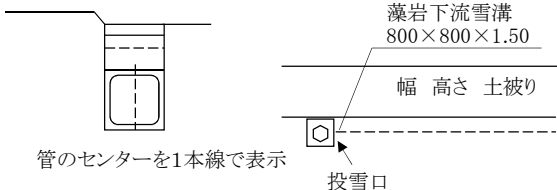
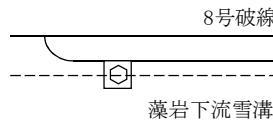
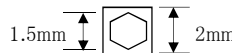
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	距離標(地点標)					●	}	道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 国道に関して入力する。 2. 資料にある距離標を点(シンボル)入力し、距離値を数値及び位置入力する。

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	踏切			●				} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定 JISコード最大30文字	1. 道路台帳図にある踏切を面入力する。 面入力の範囲はJRとの交差部の道路管理区分と同じとする。 {H31.3.29改訂(追加)}	
	注記	名称									2. 道路台帳図にある踏切名を文字入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) ● ●	(コード表のとおり) =調整中							
	属性	名称 種別	○	●							
出力表示形式											4. 名称(引き出し線)は踏切に平行に入力する。
											

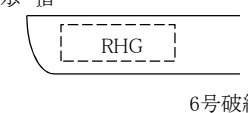
										オーバーレイ No.29		中分類		重用	
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法					
			数	文	面	線	点	形							
図形	設備	重用		○						{H18.12.26改訂(追加)}					
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	○ ○ ○ ○							札幌地区は道路管理区分の入力時の運用方法に準じフラグを格納する。					
	接続	接続道路管理区分の データ管理者番号 データ設備番号 データ路線番号	○ ○ ○ ○							道路管理区分の属性項目『種別2』に重用フラグを格納する。					
	属性	路線番号(下位) 延長 区間番号	○ ○ ○							重用区間以外 フラグ 0 重用区間 10					
出力表示形式										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					
										{H31.3.29改訂(追加)}					

			オーバーレイ No.30			その他シンボル			中分類			雨水マンホール			
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法					
			数	文	面	線	点	形							
図形	設備	雨水マンホール						●		1. 国道に関して入力する。 2. 資料にある国道の雨水マンホールを点(シンボル)入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 					

			オーバーレイ No.31			その他ライン			中分類			雨水管														
小分類			データ項目		データ形式						データ取扱い		入力時の運用方法													
					数	文	面	線	点	形																
図形		設備	雨水管						○			}		道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定						1. 国道に関して入力する。 2. 資料にある国道の雨水管を線入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}						
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号		(白)	(コード表のとおり)					(白)	=調整中															
	属性	設備種類 種別 名称 管理番号 外径 管種 延長 推測度 建設年度 高さ 土被り		●																						
出力表示形式																										
Ⓡ — Ⓡ 8号実線																										

			オーバレイ No.31					その他ライン		中分類		流雪溝				
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法						
			数	文	面	線	点	形								
図形	設備	流雪溝 櫛				●		●		1. 資料により流雪溝の暗渠部を線入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. ラインは管の中心部を入力する。 3. 投雪口でラインを切る必要はない。 						
	注記	名称 寸法														
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) = 調整中	●					} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定 コード20 管理番号あれば入力	 注記の寸法は、管路(ボックス)の幅×高さ×土被りとする。 (幅、高さ、土被りの属性項目は未入力扱い。) 						
	属性	設備種類 種別 名称 管理番号 外径 管種 延長 推測度 建設年度 高さ 土被り	● ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○													
出力表示形式																

										オーバーレイ No.32		その他ポリゴン		中分類	ロードヒーティング(車道)	
小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い		入力時の運用方法					
	数		文	面	線	点	形									
図形	設備	ロードヒーティング 種別			●			●			『 車道部 』 1. 道路台帳図にあるロードヒーティング(車道)を面入力する。 (但し、ロードヒーティングは道路管理センターでの入力となる) {H31.3.29改訂(追加)} 2. ロードヒーティング面にはその種別シンボルを1ヶ所入力する。 3. 最大10cm単位で区分し入力する。 ・ 設備種類 ロードヒーティング(車道) ----- 10 鉄道などのピア ----- 20 一般歩道ロードヒーティング ----- 30 {H18.12.26改訂(追加)} ・ 種別区分 ガス RHG ----- 1 電力 RHE ----- 2 地下鉄排熱 RHS ----- 3 温水 RHW(温水・地下水含む)----- 4 種別区分は資料を基に入力する。 {H18.12.26改訂(追加)} {H31.3.29改訂(追加)} 区域の長いものは、最大10cm単位で区分をし種別表示する。 幅が図上1cm以上の施設は中央に、1cm未満は車道側に引き出し各々施設と平行に引き出す。 </					

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法											
図形	設備	ロードヒーティング 種別	数	文	面	線	点	形													
情報	設備	ロードヒーティング 種別			●			●	} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	『一般歩道部』 {H18.12.26改訂(追加)} 1. 資料を基にロードヒーティング(歩道)を面入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} ※ 許可番号はシステム上必須入力とする。 ・ 設備種類 ロードヒーティング(車道) ----- 10 鉄道などのピア ----- 20 一般歩道ロードヒーティング ----- 30 ・ 種別区分 ガス RHG ----- 1 電力 RHE ----- 2 地下鉄排熱 RHS ----- 3 温水 RHW(温水・地下水含む) ----- 4 ・ 推測度 確定 ----- 0 頃 ----- 7 以前 ----- 8 以後 ----- 9 ・ 舗装種別 歩道OV・車道OVの舗装種別コードと同じコードを設定するものとする。 ・ 補助金有無 有 ----- 1 無 ----- 2											
	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) = 調整中	●							} 道管S側で自動設定 コード表のとおり コード表のとおり										
属性	設備種類 種別 面積 管理番号 推測度 建設年度 許可番号 許可年 許可月 許可日 占用期間(年) 占用期間(月) 占用期間(日) 変更届け(年) 変更届け(月) 変更届け(日) 補助金有無 舗装種別	● ● ● ○ ○ ○ ● ● ● ● ● ● ● ○ ○ ○ ● ●																			
出力表示形式																					
歩道  <table border="0"> <tr> <td>ガ ス</td> <td>RHG</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>電 力</td> <td>RHE</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地下鉄排熱</td> <td>RHS</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>温 水</td> <td>RHW</td> <td>4</td> </tr> </table>										ガ ス	RHG	1	電 力	RHE	2	地下鉄排熱	RHS	3	温 水	RHW	4
ガ ス	RHG	1																			
電 力	RHE	2																			
地下鉄排熱	RHS	3																			
温 水	RHW	4																			

入力時の運用方法

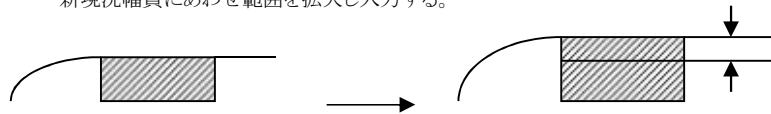
入力時の運用方法

事例

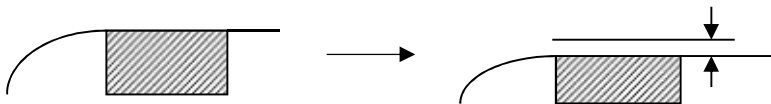
入力方法

1) 道路更新に伴い現況が変更になった場合の対応について {H18.12.26改訂(追加)}

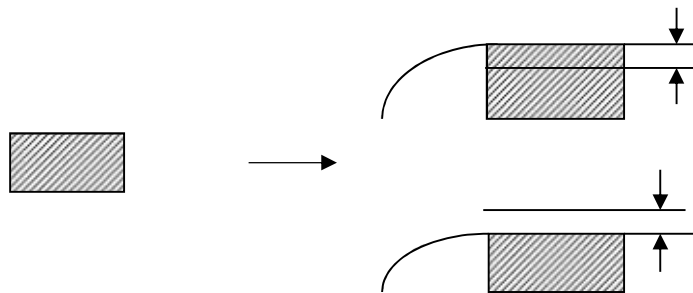
① 下図段階の現況から敷設箇所の拡幅が有った場合
新現況幅員にあわせ範囲を拡大し入力する。



② 下図段階の現況から幅員減少が有った場合
新現況幅員にあわせ範囲を縮小し入力する。



③ 下図段階の現況にはない歩道が設置された場合
新現況歩道幅員にあわせ範囲を調整し入力する。



事例

入力方法

2) 植樹帯・マンホール等の影響で変則敷設物件の対応について {H18.12.26改訂(追加)}

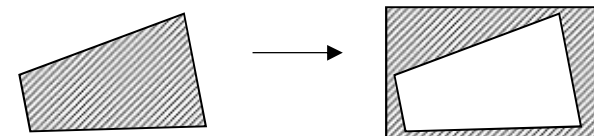
① 植樹帯の取り扱い
多角形植樹帯は四角として入力する



断続的に続く植樹帯は都度迂回して表現する



レジャーサー形状は最大幅で表現する



② マンホール・ハンドホールの取り扱い
マンホール・ハンドホール等による中抜け形状の敷設については無視

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	情報管路管路部種別				●			道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	1. 入力原稿図(プロッタ出力図)に表示してある情報管路管路部を線で入力する。{H18.12.26改訂(追加)} 2. 情報管路種別{H18.12.26改訂(追加)} コード 種別 出力図表示 1 電線共同溝(CCB) 2 自治体管路(GCB) 3 情報BOX(ICB) 4 通信ルート(CCB-T) 青 5 電送ルート(CCB-E) 赤
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自) (コード表のとおり) (自) =調整中 ● ●							
	属性	情報管路種別 共同溝名称 図面番号 (竣工図面番号) (始点)特殊番号 (終点)特殊番号 上下区分 管路部番号 建設年 建設月 管路口径 列 段 管路条数 延長 幅 高さ 深さ	○ ○ ○ ○							

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
図形	設備		数	文	面	線	点	形		
		情報管路特殊部 種別			●					
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自)	(自)	(自)	(自)	(自)	(自)	} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	
	属性	情報管路種別 共同溝名称 図面番号 (竣工図面番号) 上下区分 特殊部番号 特殊部形式 建設年 建設月 特殊部距離値 延長 幅 高さ 深さ	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○							
出力表示形式										

1. 入力原稿図(プロッタ出力図)に表示してある情報管路特殊部を面で入力する。{H18.12.26改訂(追加)}

2. 情報管路種別{H18.12.26改訂(追加)}

コード	種別	出力図表示
1	電線共同溝(CCB)	
2	自治体管路(GCB)	
3	情報BOX(ICB)	
4	通信ルート(CCB-T)	青
5	電送ルート(CCB-E)	赤

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	情報管路オフセット・デプス		●		●			}	{H18.12.26改訂(追加)}	
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自)	(コード表のとおり)	(自)	=調整中					道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定
	属性	情報管路種別 オフセット デプス	○ ○ ○								
出力表示形式											

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
図形	設備		数	文	面	線	点	形		
		リサイクル材 種別			●					
情報	コントロール	道路管理者番号 設備種別 データ管理者番号 設備番号	(自)	(コード表のとおり)					} 道管S側で自動設定 コード表のとおり メッシュ内連番を設定	
	属性	管理番号 工事番号 工事名称 リサイクル材種別 施工者区分 施工年 施工月 施工日 幅(m) 延長(m) 厚さ(m) 全体量(m ³) 路線番号 上下区分 歩車道区分	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○							
出力表示形式										

1. 入力原稿図(プロッタ出力図)に表示してあるリサイクル材使用箇所を面で入力する。
{H22.10.1改訂(追加)}

2. 各種コード{H22.10.1改訂(追加)}

① 施工者区分

コード	区分
10	道路管理者
20	NTT
30	電力
40	ガス
50	上水
60	下水
80	鉄道
90	その他

② リサイクル材種別

コード	種別
10	CA(クリンカアッシュ)
20	FA(フライアッシュ)
30	AM(アッシュ混合路盤材)
40	SIA(スラッチインシネレーターアッシュ)
50	DAI((株)大伸製汚泥再生材)
90	その他

③ 路線番号

路線区分の路線番号入力で使用する9桁のコード
(道路管理区分OV入力で定めた路線番号を入力)

④ 上下区分

コード	区分
10	上
20	下
30	横断

⑤ 歩車道区分

コード	区分
1	歩道
2	車道
3	自転車道
9	その他

【 地 形 】

平成18年12月15日初版
平成18年12月26日改訂
平成19年11月12日改訂
平成31年3月29日改訂(デジタル道路台帳図データから更新)

目 次	
オーバーレイNo.	ページ
201. 行政界	1
202. 地 番	2
203. 家 屋	4
204. 家屋名	5
205. 街 区	10
206. 河 川	13
207. 鉄 道	15
208. 私 道	16
209. 基準点	17
210. 信号灯	18
211. 門 柱	19

〔 地 形 〕

道路台帳図のデータは道路区域内のデータが主であり、地形編に該当するものは

街区以外は殆んど入っていない。 また部分的でしか無い。

従って、街区以外のOVの既設データは周りの状況を見て、位置 形状の修正を行う。

また、不自然なものは削除する。

街区データは真幅道路・歩道線等をもとに作成する。

{H31.3.29改訂(追加)}

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	行政界				●			}	道管S側で自動設定 行政界種別コードを設定 (コード表)	1. 行政界は道路台帳図どおり入力する。(但し、道路台帳図では部分的にしか入力されていない) {H31.3.29改訂(追加)} 2. 札幌地区は、市境・区界・条丁目界のみ入力。 *条丁目界は、平成13年度初期入力。 3. 属性情報なし。(MTはダミー扱い)
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号(種別)	(自)=1 (自)=1 ●								
出力表示形式											
(都道府県境) ----- 1点破線 (市 境) ----- 2点破線 (区 境) ----- 2点破線 (町 境) ----- 破 線 (特別区境) ----- 1点破線											

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	注記	地番		●					道管S側で自動設定 ＝0 種別は設定しない＝0 文字データレコードに格納 (属性情報ではない)	1. 入力資料のとおり以下の内容を文字入力。 (1) 条丁目名、町名、行政区名の他に河川名、鉄道名、公共的目標物名(公園、その他地名)主要道路名を入力。 (2) 行政区名は、1メッシュ内に2つ以上の行政区が存在した場合、各々代表として1つ入力するが、1メッシュが全面共通の行政区の場合入力の必要はない。 (3) 町、丁目、街区番号を入力し、番地は省略する。 1メッシュ内に同じ町、条丁目が複数ある場合は代表を入力。 (下記パターンのとおり) (4) 主要道路名とは主要市道以上(コード1～6)とし幅員15m未満の道路名は道路外に平行に表示。 (5) 公共的目標物名は3頁参照のこと。 (6) 各文字の大きさは出力表示形式のとおり。 (7) 行政区名、条・丁目、町名は道路外に表示する。 (8) 極力横書き入力とする。 2. 属性情報なし。(MTはダミー扱い)
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号(種別)	(自)＝1 (自)＝2	●						
	属性	種 別 地 番	○	●						
出力表示形式										
南12条西12丁目 市町村区名 : 9mm 条丁目名 : 4mm 目標物名 : 4mm 主要道路名 : 4mm 鉄道河川名 : 4mm 南9条西13丁目 南9条西12丁目 南10条西13丁目 南10条西12丁目 南11条西13丁目 南11条西12丁目 札幌市中央区 南10条西11丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 南10条西12丁目 <										

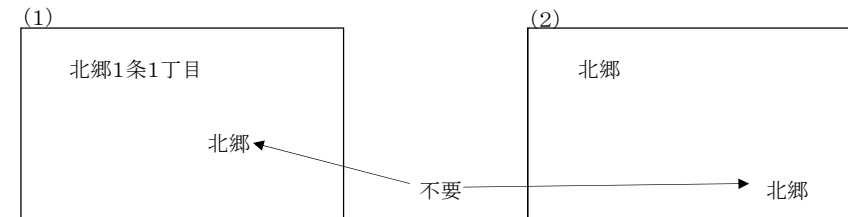
入力時の運用方法

3. 「目標物」の定義について
「目標物」については、当システムの中で「目標物名」による検索を行う時に必要な項目であり、地番レイヤに入力する。
「目標物」は、一般的に知られている物件名等で、主に公立の施設とする。

区分	主な目標物名	備考
道庁等	道庁・支庁・教育庁・開発局(建設部)	
市役所	市役所・区役所・区民センター・区連絡所・水道局・下水道局(センター)	
文化施設	美術館・資料館・図書館・各文化会館・記念館	公立のみ
	市民会館・福祉センター・青少年会館(センター)	
	植物園・動物園・放送会館(ホール)	
スポーツ施設等	体育館(センター)・運動場・競技場・球場・公園	公立のみ
学校等	大学・短期大学・高等学校	
	中学校・小学校・幼稚園・保育所	
税務・法務	税務署・裁判所・法務局	
運輸・労働	陸運局・気象台・労働基準局(監督署)・職業安定所	
農林・水産	食料事務所・営林局・農業試験所	
医療・衛生	国公立病院・保健所・急病センター	
警察	道警本部・警察署・出張所	
消防	消防局・消防署・出張所	
郵便	郵政公社・郵便局	
交通機関	JR駅・地下鉄地上駅・市営バス営業所	
外国公館	領事館	
仏閣	神社・寺(図上縦横5cm以上)	

入力時の運用方法

4. インターチェンジ付近の入力については、高速道路用地内は入力しない。ただしインターチェンジ名及び高速自動車道名は、特例として入力する。
5. (1)の様に1図面内に条丁目が別にある場合は、“北郷”のみの入力は不要。
(2)の様に条丁目が無い場合は、どれか1つを入力する。



6. 霊園及び墓地は、公園と同じ考えで目標物として入力する。
7. 地下鉄地上駅名は、目標物とする。

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	家屋				●			} 道管S側で自動設定 =0	1. 道路区域から5mまでは物置・車庫を含む全ての建物を入力する。 ただし、私道は該当しない。 2. 道路区域から5m以降の物置・車庫は入力しない。 ただし、一般家屋相当の大きさのものは入力する。 3. 建設中の家屋は、破線部分を家屋として入力し家屋名は不要。 建設中 → 4. 無壁舎建物は入力しない。(ガソリンスタンド・市役所等の入口部を含む) 無壁舎建物 スタンド → スタンド 5. 家屋に付属する階段は家屋に含む。 ただし、法・ブロック積・コンクリート等の法敷による落差の為に設置された階段は入力しない。 アパート → アパート アパート → アパート 6. 高層建物で低層部高層部に区分されている建物は、原稿図どおり棟割同様入力する。
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号(種別)	(自)=1 (自)=3 ●							
出力表示形式										
4号実線										

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	注記	家屋名		●					道管S側で自動設定 =0	1. 家名(名称)の記入位置は、原則として「入力資料の記入位置」とする。 2. 一つの家屋に複数の家屋名が記入されている場合の優先順位は次のとおりとする。 ①ビル名・マンション名・アパート名 ②会社名・店舗名 ③個人名 ④その他(倉庫・車庫・物置・他) *②において、階数表示のあるものは、原則として1階を優先する。 3. 2メッシュ双方に表示されているものは、各々家名を属性に入れる。 平岸小学校 10-11-15 メッシュ境 10-11-20 平岸小学校 4. 1軒の家屋に2世帯居住し資料に表示されているものは入力する。 (2レコードに分けても差し支えない) 山本 山田 佐藤工業 山下 5. 家屋名が長い場合は、家屋よりはみ出してもよいが、道路にはみ出してはならない。 6. (株)は入力しない。アパート・スポーツ等の「一」は、横棒のJISコードとする。 7. 文字の向きは、図郭と平行とする。 8. 原稿図上の㊦記号は同姓の表示を表すもので省略せず同姓を入力する。 山本 ㊦ → 山本 山本 9. 地番レイヤで入力したものは、入力しない。 10. 第2水準にない文字は、ひらがな入力とする。
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号(種別)	(自)=1 (自)=4	●						
	属性	種別 家屋名	○	●						
出力表示形式										
中央区曙会館 文字サイズ 3mm										

入力時の運用方法	入力時の運用方法
11. 同名のマンションが並ぶ場合は、各々入力せず棟番号で良い。 12. 大規模な団地は、総称を地域の中央に入力し建物は棟番号とする。 13. 入力資料が古い為に日本国有鉄道・日本電信電話公社・日本専売公社と表示されているものは、JR・NTT・日本たばことして入力する。 14. JR苗穂工場の様に敷地内に多くの家屋があり、それぞれ家名が入り、それ以外の箇所にJR苗穂工場の名称がある場合は、団地と同じ扱いとし工場名をその敷地内に入力する。 15. 自動車練習コース、ゴルフセンターなど家形のない場合の家屋名は、入力しないが、それに付随する事務所、管理棟にその家屋名を入力する。	

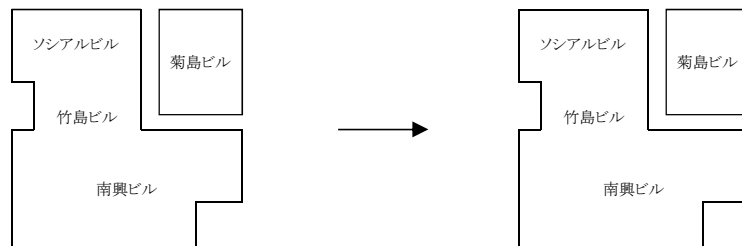
入力時の運用方法

入力時の運用方法

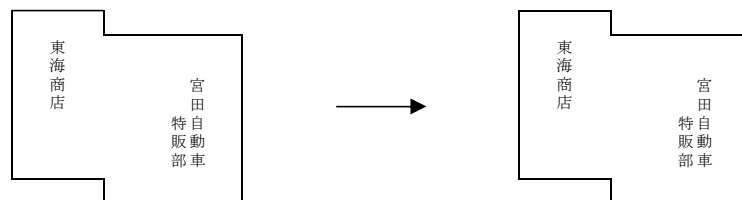
事例

入力方法

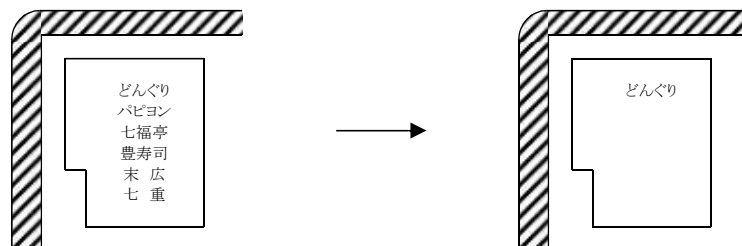
- 1) ビル名、アパート名が複数の場合 → 全部入力する



- 2) 会社名、店舗名が2つある場合 → 2つとも入力する。



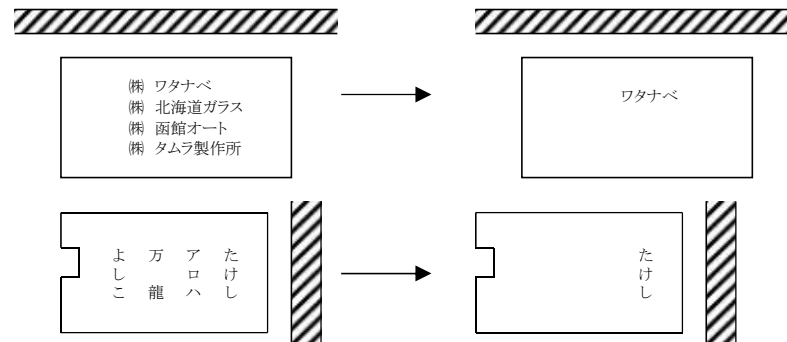
- 3) 会社名、店舗名が3つ以上で
①家屋が角地にある場合 → 交差点に近いものを一つ入力する。



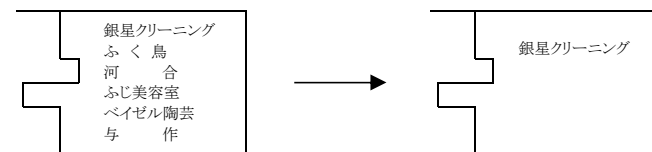
事例

入力方法

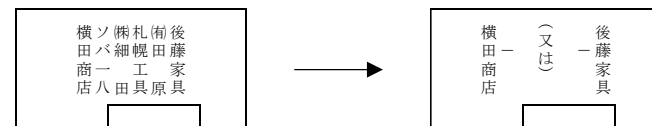
- ②家屋が角地でないが道路に面している場合 → 道路に近い名称を入力する。



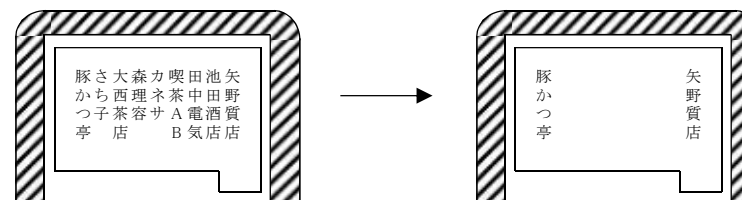
- ③家屋が角地でなく家名が横書きの場合 → 上(北)に記入されているものを入力する。



- ④家屋が角地でなく家名が縦書きの場合 → どちらかの端で道路角に近い方を入力する。



- ⑤家屋が一丁画(角かど)にある場合 → 両角の家名を入力する。



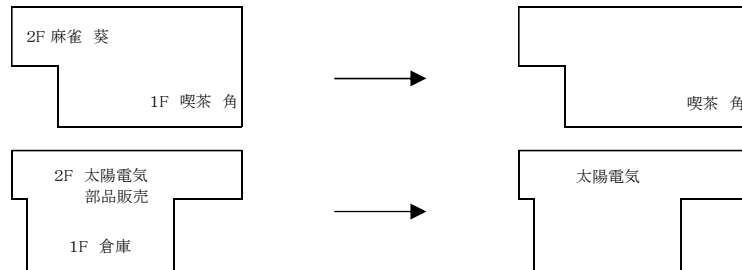
入力時の運用方法

入力時の運用方法

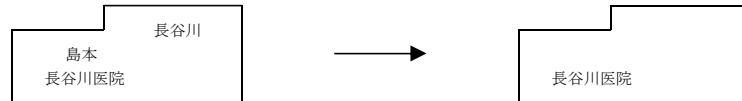
事例

入力方法

- 4) 会社名、店舗名で階数表示がある場合 → 1階の家名(名称)を入力する。
ただし、下の階が倉庫、車庫等の場合は最も低い階の名称とする。



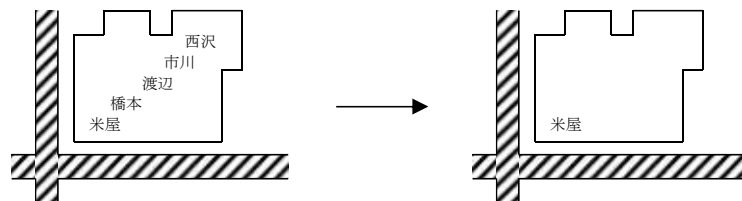
- 5) 会社名、店舗名、個人名の場合 → 会社名、店舗名を入力する。



- 6) 個人名が2つの場合 → 2つとも入力する。



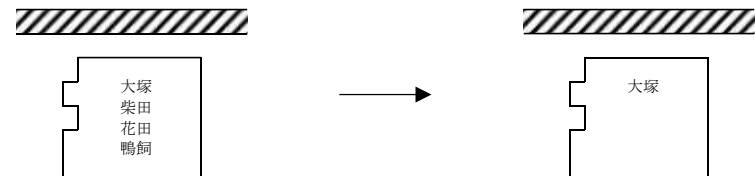
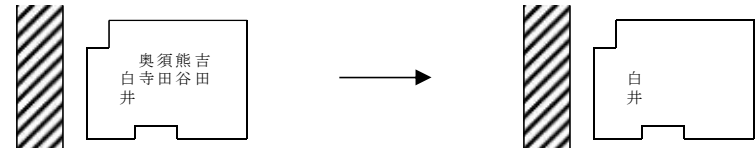
- 7) 個人名が3つ以上で、
①家屋が角地の場合 → 交差点に近いものを1つ入力する。



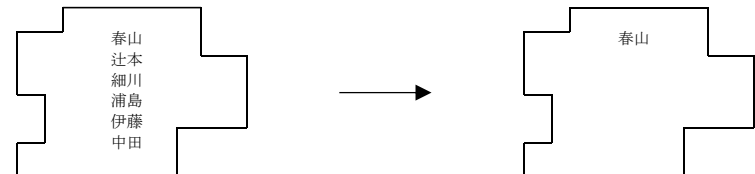
事例

入力方法

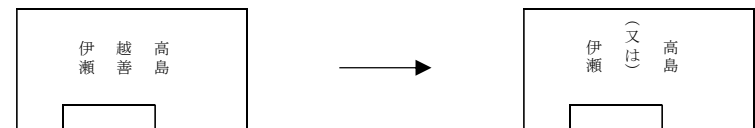
- ②家屋が角地でなく道路に面している場合 → 道路に最も近いものを入力する。



- ③家屋が角地でなく家名が横書きの場合 → 上(北)に記入されているものを入力する。



- ④家屋が角地でなく家名が縦書きの場合 → どちらか端の道路角地に近いものを入力する。

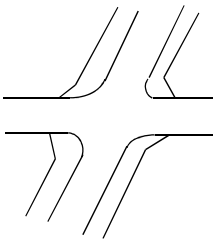
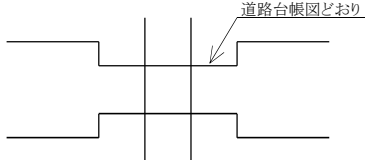
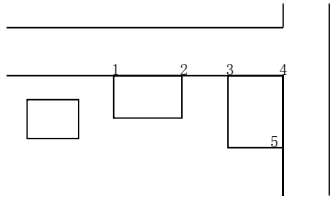
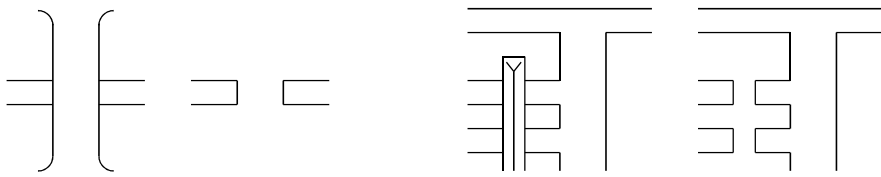


入力時の運用方法

事例	入力方法
8) 名称等の省略例(ただし、公共的建物を除く) ・会社名の他に、支店・部署名があるもの。 ・名称が長く省略しても判断可能なもの。	
宮田自動車 部品販売所	宮田自動車
丹野組 質材センター	丹野組
日産自動車株式会社 札幌支店部品部事務所	日産自動車
俵佐藤 機械商会	佐藤機械
真鍋木工製作所	真鍋木工
北王鉄鋼建設工業所 岡山建築設計事務所	北王鉄鋼建設 岡山建築設計
トヨタ自動車(株) 優良部品部 札幌営業所	トヨタ自動車
東北三 願桑 寺支院	東本願寺

入力時の運用方法

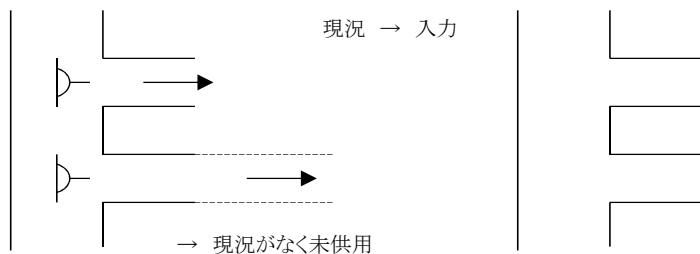
事例	入力方法
9) 団地の場合の記入例	
W1 W2 E5 E6 N11 N12	もみじ台団地
W3 W4 E7 E8 N13 N14	
W5 W6 E9 E10 N15 N16	
10) マンションの入力例	
ひばり マン シ ョ ン A	B C
コーボ高橋 T1	T2
ライオンズ マンション中央 A棟	B棟
11) 公共的建物の省略例	
日本電信電話(株) NTT 札幌大通営業所	NTT 札幌大通営業所
北海道旅客鉄道(株) 本社西ビル	北海道旅客鉄道 本社西ビル
警札幌 警察官 署前 派出所	札幌 出帆 所前

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	街区				●			} 道管S側で自動設定 メッシュ内連番を設定	1. 道路台帳図の真幅道路・歩道線・付属物(施設帯)を街区として線入力する。 (付属物(施設帯)分類 コード2223 幅員が0.75m未満のもの) {H31.3.29改訂(追加)}
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号(種別)	(自)=1 (自)=5 ●							2. 路面電車の停車帯、ホーム等も街区で入力する。 また、JR駅舎や地下鉄地上駅も街区で入力する。
	属性	種別 現況有効幅員線 階段	○ ● ●							3. 石積・Kヒ・法等が道路線と重なる場合は、道路側を入力する。
出力表示形式										
										
4. 橋梁部分は、地覆内側部分を入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}										
5. 踏切部分は、踏切側面を入力する。 {H31.3.29改訂(追加)}										
										
6. 階段は、外側の線を街区として入力する。										
7. 街区と家屋が重なっている場合は、各々のレイヤで入力する。										
										
1～5のポイントは、街区のレイヤ及び家屋のレイヤ双方で入力する。										
8. アンダーパス・橋梁の下方路線は表現せず下方部を閉じて入力する。										
(1) 現況 → 下方路線の入力 (2) 現況(地下鉄交差)										
										

入力時の運用方法

9. その他の行き止まり路線は閉じる。

10. 未供用路線も現況の終点で閉じる。

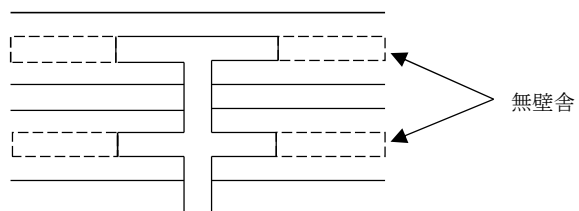


11. 自転車道も街区として入力する。(12頁11の事例参照)

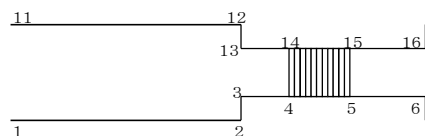
12. 歩道・分離帯も街区として入力する。

13. 鉄道高架は、高架外側を入力する。

14. JRホーム上の無壁舎は、入力しない。



15. 街区において階段が生じた場合の入力方法



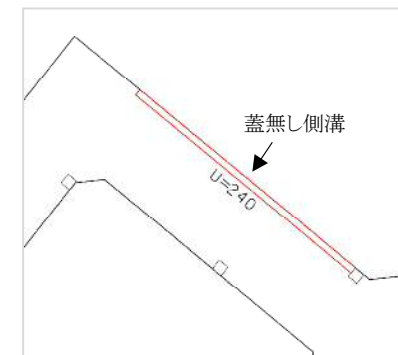
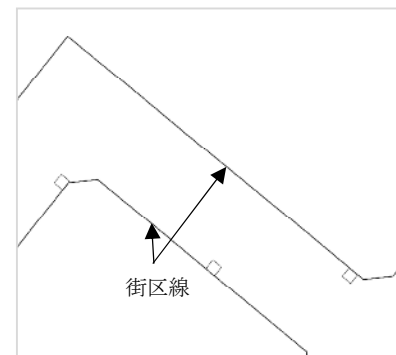
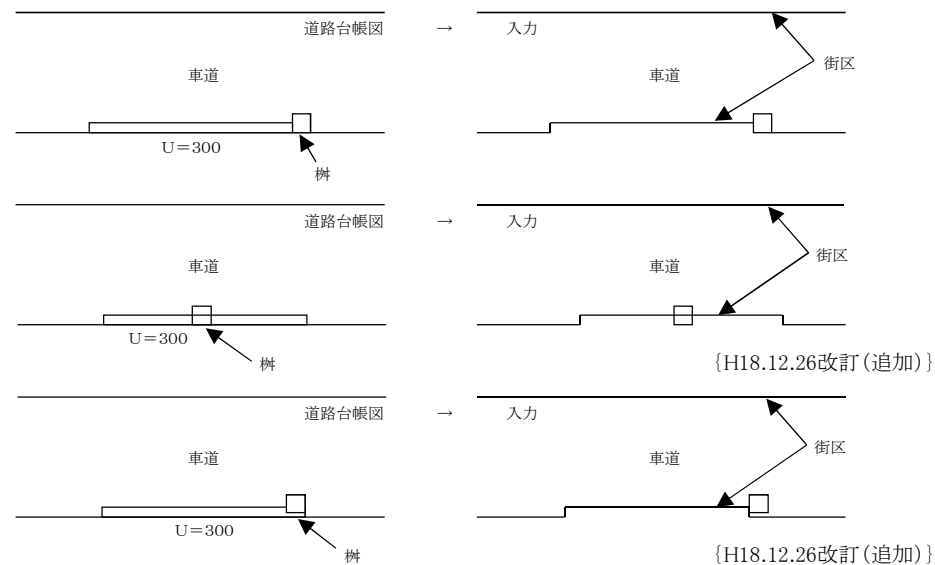
4. 5. 14. 15でデータを切る必要はない。

16. 横断歩道橋に属性データがない場合は、街区で形態を入力する。

17. 歩道が縁石・ガードレールで区分されている箇所も街区として入力する。{H18.12.26改訂(追加)}
{H19.11.12(項番変更19～17～)}

入力時の運用方法

18. 蓋無し側溝がある場合は、側溝線の道路中心側に沿って入力する。



道路台帳図の真幅道路線は、蓋無し側溝があっても直線で入力されていることがある。

{H31.3.29改訂(追加)}

入力時の運用方法

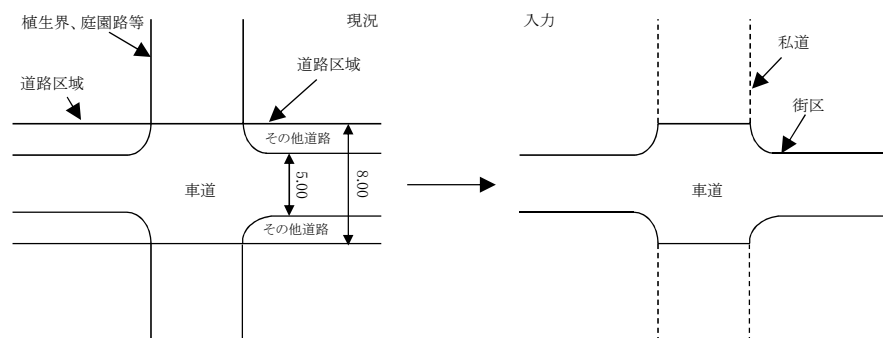
1の事例(現況と道路区域が一致していない場合){H18.12.26改訂(追加)}

1) 隅切部分が道路区域と一致していない場合

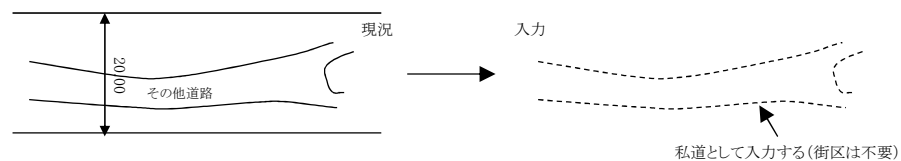


2) 取付部分が道路区域から出る場合

{H31.3.29改訂(追加)}

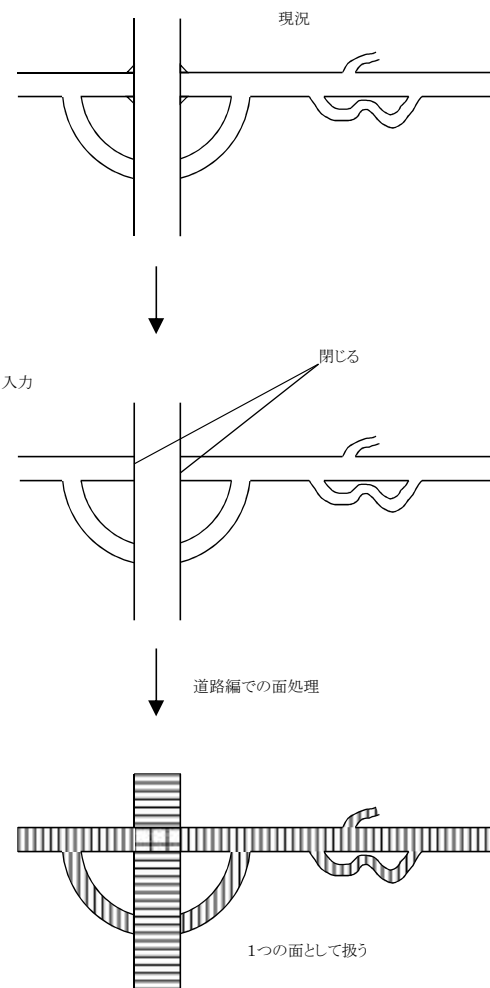


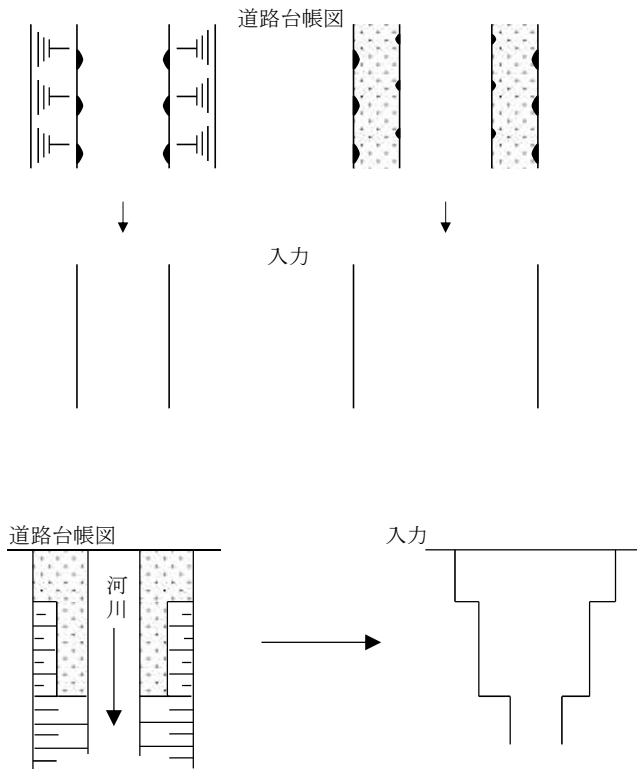
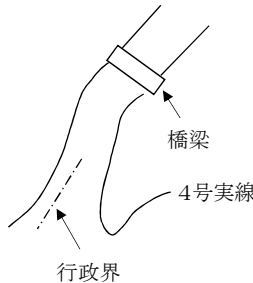
3) 道路区域のみが確定した場合(現況未供用)

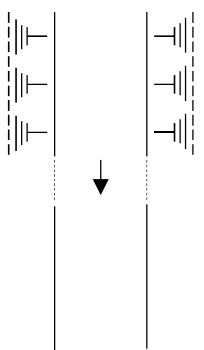
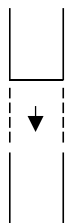
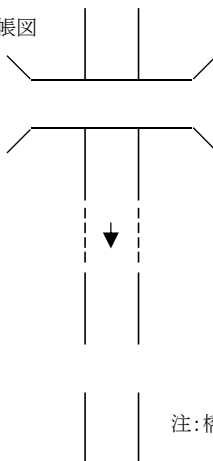
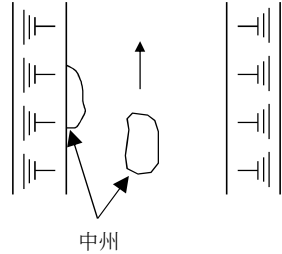


入力時の運用方法

11の事例



小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	河川				●			} 道管S側で自動設定 =0	1. 道路台帳図に入力されている河川(分類コード5101)を入力する。 (河川として入力されている図形は少ない) 河川は、道路管理区域より5m等の区分に関係なく入力対象とする。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. 河川は2条入力(片岸1条で入力)を基本として表現する。 3. 属性情報はない。(MT交換はダミー扱い) 4. 護岸のあるものは、護岸の上部を入力する。 (法数は含めない) 道路台帳図  {H18.12.26改訂(追加)}	
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号	(自)=1 (自)=6 ●								
出力表示形式											
											

入力時の運用方法	入力時の運用方法
5. 護岸のないものは、水際線を入力する。  道路台帳図 入力 6. 河川が途中からもぐる場合は、河川を閉じて入力する。  道路台帳図 入力  注：橋で切れる場合は閉じない。	7. 河川の中州は入力しない。  中州 8. 小河川、小水路で図上2mm未満のものは、省略する。{H18.12.26改訂(追加)} 又図上2mm以上のものは、河川として入力する。 9. 素掘側溝でS=1000(図上2mm)以上のものは、河川で入力する。{H18.12.26改訂(追加)} 10. 道路台帳図には大きな河川しか入力されていない。 小河川は殆んど入っていないので既設のものは周りの図形を見て残せるものは位置・形状等の整合を図り残し、不自然なものは削除する。 {H31.3.29改訂(追加)}

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
図形	設備	鉄道	数	文	面	線	点	形	道管S側で自動設定 =0	1. 道路台帳図のJR軌道及び路面電車軌道を入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. 属性情報なし。(MTはダミー扱い) 3. 軌道は、中心線の1本(1条)線を入力する。 {H31.3.29改訂(追加)} 4. 札幌市の地下鉄の地上部は入力しない。 5. 札幌市の高架に伴う駅舎は街区で入力する。
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号	(自)=1 (自)=7 ●							
出力表示形式										
軌道は中心線の1本 ・駅舎、ホームは街区で入力。 ・駅ビルは家屋で入力。 ・名称は地番レイヤで入力。										

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法	
			数	文	面	線	点	形			
図形	設備	私道				●			道管S側で自動設定	1. 道路台帳図に私道の入力はない。 {H31.3.29改訂(追加)} 2. 私道の判断は、道路管理区分が対応されていない道路とする。 尚、庭園路等は入力しない。 3. 属性情報はない。(MTはダミー扱い) 4. 私道で歩道も設置されているものは、歩道もライン入力する。 5. 私道の橋梁・階段は区分せず私道のラインで入力する。	
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号	(自)=1 (自)=8 ●								
出力表示形式											

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	基準点					○			札幌地区は入力対象外
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号	(自) =1 (自) =23 ○							
出力表示形式										
3号線 										

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	信号灯						○		札幌地区は入力対象外
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号	○ ○ ○	=1 =24						
出力表示形式										
 3号線										

小分類		データ項目	データ形式						データ取扱い	入力時の運用方法
			数	文	面	線	点	形		
図形	設備	門柱					○			札幌地区は入力対象外
情報	コントロール	地形番号 設備種別 設備番号	○ ○ ○	=1 =25						
出力表示形式										
3号線 										